

て最も適當したもので、從前より確か兵庫邊の名産としてはおつたが價が餘程高いものであつたと思ひます、東京で賣り出したのは今回が初めて價の割合には餘程甘く出來てゐます。

○自七歳至十歳男女並に幼稚園、七巧板箴之は本會の考案で、餘程甘いものが出來たと思ふ、一枚の正方形を七ツに切り種々の形の板となし、之を種々に排べて不思議に面白い形が澤山出來る、此の板は昔からあつて、本紙にも一度説明を出したと思ふが今度の工夫は之を應用して種々の形を板に掘り抜いたのであります、故に唯だ其の凹所に七枚の板を入れ、ばよいのである、昔の圖形丈け見てやるよりは餘程やさしく出來ます、新な圖形も工夫して入れてあります、推理方を養成するに効がありますから可成初め教へないがよいと思ひます。

因に記す、リングベルス、七巧板箴及び六色圓板は本會の工夫に成りしものであります、本會も萬事稍々整頓しましたから以後も可成新工夫のものを出す積りであります、讀者諸賢も御

考へ付のものもありましたれば、斯界の爲め御通報を願ひます。尚ほ六色圓板、七巧板箴は幼稚園などにも頗る適當な材料だと思ひます。

家庭と育兒

原胤昭氏談

▲三歳兒の魂 昔から「三歳兒の魂百迄」と云ひ「梅檀は嫩葉より馨ばし」といふが赤兒が生れて三歳の時に斯くの如き馨ばしき聲を揚げたならば必ず其兒は成功する圓滿なる生涯を送ることを得る人間の頭腦は生れて三四歳の時に固まるもので馨ばしい子供は穩健家庭に育つたからである凡そ物を盗むやうな兒は既に三つ四つ時から盗み根性があるもので漸くチヨロ／＼歩きする頃にお客様の風呂敷包の中を覗いたり或は包を開いて何か盗まうとする性質があるとは犯罪人の經歷が常に説く所である更に兒童の周圍に就て研究して見ると繼母の手に育たれたとか或は兩親を失つて不幸の兒に此種の者が多い平生食物に不足を告

ける所から菓子の一つも盗み食ひしやうといふ境
遇裡に人となるので其兒の生涯は慙むべき犯罪人
を以て終るのである。

▲兩親の罪 世間に三人四人子供のある中で一人
不良の少年が生れることがある親は立派な地位あ
り名望ある人で斯の如き例は世間に幾らもある結
果だけ見ると如何にも不思議であるが是は決して
不思議でない其兒の生れた時に溯つて探究して見
ると左様いふ悪い兒が生れて來ねばならぬ周囲の
事情があるからで無論兩親の罪である現在の境遇
から見ると不思議といふのも其親の過去と其兒の
三歳四歳よりの成長時代とを照會して見ると判然
と分明して來るそれと共に不良少年に依つて双新
の歴史が明かに證據立てられる。

▲兒童の幸不幸 男子が妻帯するのは生計の裕な
る時で最も順境にある日である家庭は圓滿である
第一第二の小兒が生れて三歳四歳といふ時は恩愛
の手に育てられて幸福を夢みつゝあるも父親が或
年齢に達して功名に馳する所から新事業を企て、
夫れが不幸にも失敗に終る非常なる苦痛と困難と

を感ずる從つて邪念を萌す不健全なる精神状態に
陥る此際に長じて三四歳に達した第三の兒童は實
に不幸である其後父ある人の生活の漸く順正なる
に向いて來て富裕の身分となり思想漸く順正なる
時に第四の子供が生れて三四歳になる第四の子供
は又善良に育つのである家庭の不和は貧富に限ら
ず父親が大酒とか不品行とか或は妻の嫉妬心等が
孰れも圓滿なる家庭波風を立たせるのである等が
接し兒童の頭腦構成に其結果を及ぼすのであるか
ら人の親たるものは此點に注意を怠つてはならぬ
(日々)

